

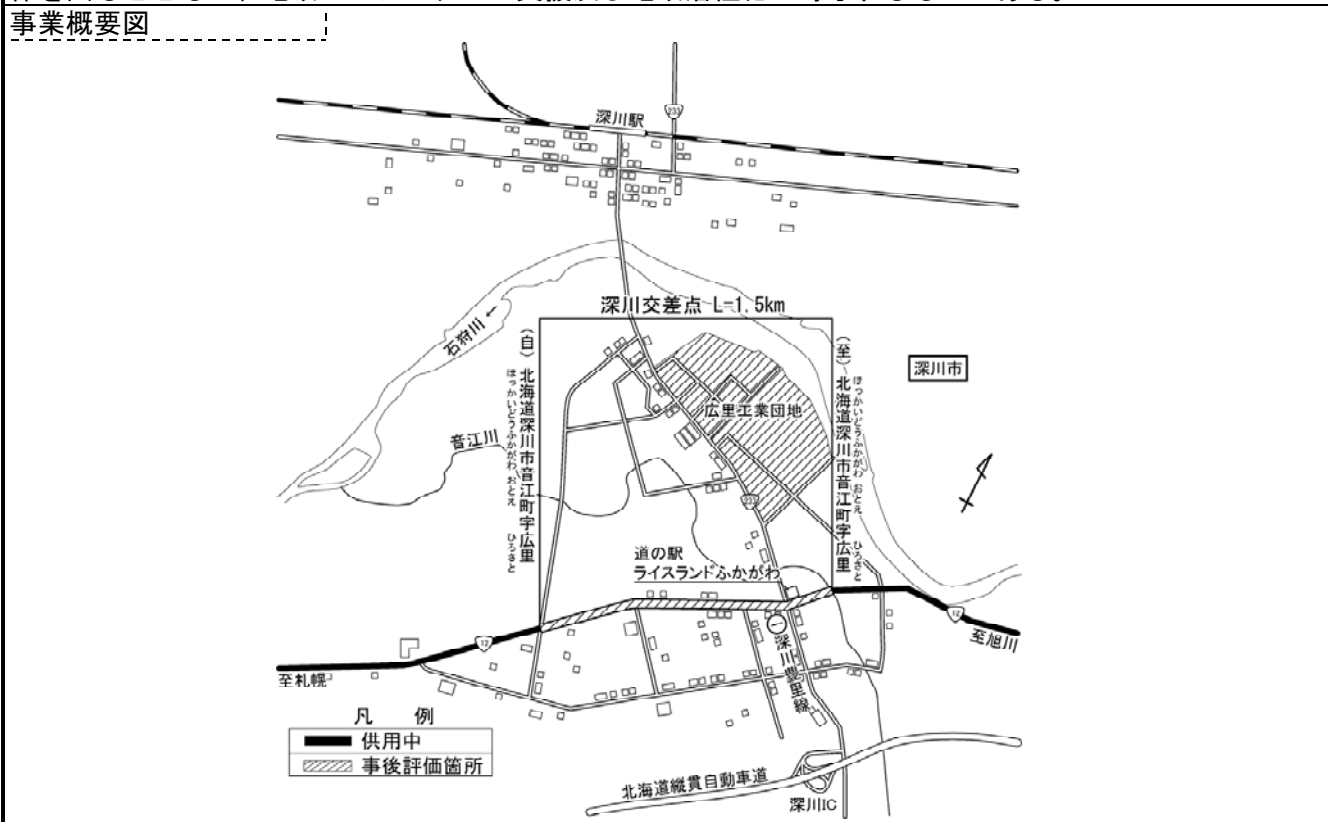
事後評価結果（平成19年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
 担当課長名：山口 登美男

事業名	一般国道12号 深川交差点	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道深川市音江町字広里 至：北海道深川市音江町字広里	延長	1.5km		

事業概要
 一般国道12号は、札幌市を基点とし、道北圏の中心都市旭川市に至る延長約14.5kmの主要幹線道路であり、道北圏と道央圏を結ぶ重要な路線である。このうち深川交差点は、一般国道12号と道央縦貫自動車道深川ICとアクセスする道道深川豊里線及び深川中心市街地へ至る一般国道233号とが交差する交差点の延長約1.5kmの4車線拡幅事業である。

事業の目的・必要性
 深川交差点は、道路拡幅・交差点改良により一般国道12号の交通混雑の緩和及び安全性・定時性の確保を図るとともに、地域プロジェクトの支援及び地域活性化に寄与するものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H2年度 都市計画決定：一年度	用地着手：H4年度 工事着手：H7年度	供用年：(当初) - / H14年度 (暫定/完成) (実績) - / H15年度	変動：1.1倍	
	事業費	計画時 (名目値) - / 30.0億円 (暫定/完成) (実績値) - / 30.8億円	実績 (名目値) - / 33.9億円 (暫定/完成) (実績値) - / 35.0億円		変動：1.1倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (供用前現道) 10,679 台/日	実績 (当該路線) 11,715 台/日		変動：1.1倍	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	41.0 → 47.5 km/h (供用前年次) H6年度 (供用後年次) H17年度	交通事故減少 (供用前現道→当該路線)	84.5 → 71.8 件/億台キロ (供用前年次) H5～6年平均値 (供用後年次) H16～17年平均値		
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C: 2.1	総費用: 49億円 事業費: 47億円 維持管理費: 2億円	総便益: 103億円 走行時間短縮便益: 100億円 走行経費減少便益: 1億円 交通事故減少便益: 2億円	基準年: 平成19年	
事業遅延によるコスト増	費用増加額: 5.3億円	便益減少額: 0.3億円				
事業遅延の理由 交差点交通の切り替え時期の変更による。						

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現道等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の4車線拡幅及び右折車線整備により、渋滞長の減少や交通混雑の解消が図られた。 【最大渋滞長】（整備前）：5,000m → 供用後（整備後）：0m 【渋滞損失時間】（当該区間）：15.8千人・時間/年（削減率）：約6割削減 ●関連する大規模道路事業と一体的整備の必要性または一体的整備による効果 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の整備により、深川ICアクセス性強化 ●新規整備の公共公益施設と直結されたことによる効果 <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の整備後に新設された道の駅「ライスランドふかがわ」に伴い、深川市の観光入込客数は大幅に増加している。 【観光入込客数（主要3施設）】整備前：93千人（H14） → 整備後：1,057千人（H17） ●対象道路の整備により、削減される自動車からのCO2排出量 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減量 688t-CO2/年 <p style="text-align: right;">他3項目について効果の発現が見られる</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
<p>事業による環境変化</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価対象外事業である。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口・産業等の社会経済情勢の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・深川市において、人口は減少している。 人口 30,671人（H2国勢調査） → 25,838人（H17国勢調査） ・深川市における観光入込客数（主要3施設の合計）は大幅に増加している。 観光入込客数 93千人（H14） → 1,057千人（H17） ・深川市における商業販売額は増加している。 商業販売額 約462.8億円（H14） → 約477.4億円（H16）
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>深川交差点の整備により、交通渋滞の解消とともに新規整備の公共公益施設へ直結され、地域の活性化が図られるなど、整備に伴う効果が発現している。よって、今後の事業評価の必要性はない。 また、改善措置の必要性はないが、今後も利用しやすい道路環境の確保に努め、適切な維持管理を実施し、そのコスト縮減に努める。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>
	<p>特記事項</p> <p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。